

教科内容

2年生

科目名	歯科保健統計	授業担当者	比嘉 努
開講時期	2年 前期	単位・時間数	2単位 30時間
<<学習目標>> 歯科衛生士に必要な歯科保健統計の種類、方法を学び、統計的な見方、使う技術を身につける			
<<到達目標>> 1. データの形態や分布などの特徴を説明でき、EBMを理解できる 2. 有病および罹患を説明し、有病率、罹患率、発病率、また敏感度および特異度を計算できる 3. 指標と指数を理解できる 4. 保健調査の基本、母集団と標本、標本抽出法が理解できる 5. データ、数値のもつ特徴を理解できる 6. 代表値や散布度、分布度に応じた検定を選定できる 7. 検定の流れ、t検定、x2検定を説明できる 8. 情報の特性や情報モラルを理解できる			
<<授業計画>>			
回	授 業 内 容		
1	保健情報と保健統計 (1)保健情報、(2)保健統計		
2	保健情報の種類		
3	国家統計調査		
4	保健情報と疫学		
5	観察研究、介入研究、クリーニング(疾病と検査との関係)		
6	歯科疾患の指数		
7	保健情報の分析手順		
8	母集団と標本抽出、復元抽出と非復元抽出		
9	保健統計の方法、データの特徴、記述統計、推定と信頼区間、検定		
10	保健情報の多変量解析		
11	保健情報の分析手順		
12	図表の作り方		
13	情報の保護と倫理		
14	個人情報保護、情報モラル		
15	まとめ		
<<評価方法>> 試験、出席状況など総合的に評価			
<<教科書・参考文献>> 最新歯科衛生士教本「保健情報統計学」(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「保健生態学」 (医歯薬出版)			
<<実務経験>> 歯科医師として南部医療センター・こども医療センター歯科口腔外科に勤務。 主に口腔外科一般および顎変形症の治療を担当。これまでの臨床の実務経験をもとに 歯科保健統計学について講義します			

科目名	保存修復学	授業担当者	渡慶次 彰
開講時期	2年 前期	単位・時間数	1単位 20時間(内10時間担当)
≪学習目標≫ 保存修復学における基礎知識、技術の理解と修得に努める。			
≪到達目標≫ 1. 保存修復学の意義、目的を理解する 2. 保存修復学の基礎知識を修得する 3. 保存修復学に用いる材料、器具等の理解に努める 4. 保存修復における歯科衛生士の役割を理解する			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	保存修復学の概要と目的を理解する		
2	保存修復学において必要な診査、及び問診等の理解		
3	保存修復学で用いる器具、及びその使用法		
4	間接法修復のインレー、アンレー修復の意義・概要、具体的な内容の理解		
5	保存修復における歯科衛生士の役割の理解		
≪評価方法≫ 定期試験で総括的評価を行う 出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」(医歯薬出版)			
≪実務経験≫ 埼玉県浦和市波多野歯科にて3年間、保存修復、歯内療法、保綴の治療を主に担当。 波多野歯科での実務経験をもとに保存修復について講義を行います。			

科目名	保存修復学	授業担当者	上江洲 出
開講時期	2年 前期	単位・時間数	1単位 20時間(内10時間担当)
≪学習目標≫ 歯科診療で最も頻度の高い保存診療の内容について理解する			
≪到達目標≫ 1. コンポジットレジン修復について、その組成、種類、特徴、適応症、その手順を説明できる。 2. セメント修復について、その組成、種類、特徴、適応症、その手順を説明できる。 3. ベニア修復やその他セラミックインレー、コンポジットインレー修復法について説明できる。 4. 保存修復における歯科衛生士の役割を理解し、手順と診療補助について説明できる。			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	コンポジットレジン修復		
2	セメント修復		
3	ベニア修復		
4	保存修復における歯科衛生士の役割		
5	試験対策		
≪評価方法≫ 定期試験で、総括的評価を行う 出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」(医歯薬出版) 保存修復学21 (永末書店) その他			
≪実務経験≫ 上原歯科クリニックに勤務。5Djapanファンダメンタル エンド修復コース、福西一浩先生・宮崎真至先生のCR修復セミナー受講。これらの経験をもとに保存修復学について講義を行います			

科目名	歯内療法学	授業担当者	仲若 三男
開講時期	2年 前期	単位・時間数	1単位 20時間
<p>《学習目標》</p> <p>歯の硬組織疾患から継発して起こる、歯髄および根尖性歯周疾患の原因、分類を把握し、その予防及び治療法を理解する</p>			
<p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯髄炎および根尖性歯周炎に伴って発現する、疼痛、腫脹、排膿などの症状について理解し、患者さんに十分な説明が出来るようにする 2. 処置方針を理解したうえで、術前の器械、薬剤の準備、術中の術者の治療操作が円滑に進行するように、準備出来る様にする 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	歯内療法の概要		
2	歯髄の保存療法		
3	歯髄の除去療法		
4	根管治療・根管充填		
5	外科的歯内療法		
6	歯の外傷		
7	歯内療法における安全対策		
8	歯内療法における歯科衛生士の役割		
<p>《評価方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験で総括的評価を行う ・出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する 			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」(医歯薬出版) 歯科衛生士試験対策(医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>医療法人なかわか くくる歯科医院にて歯科医師として勤務。主に一般歯科治療を担当。 くくる歯科医院での実務経験をもとに歯内療法学について講義します。</p>			

科目名	歯周療法学	授業担当者	金子 智之
開講時期	2年 前期	単位・時間数	2単位 30時間
<p>《学習目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯周病の予防と治療について理論的に理解し、患者に対して適正な歯科保健指導が行えるように、口腔清掃指導の知識と技術を修得する ・歯周治療における知識や歯科衛生士の担う役割について修得する 			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正常な歯周組織について、説明できる ・歯周疾患の成り立ちを理解し、分類ができる ・歯周疾患の治療法、予防法を理解し、その基本的な考え方が説明できる ・歯周疾患の診査、診断方法、歯周基本治療が説明できる ・歯周治療における歯科衛生士の役割について具体的に説明できる ・歯周治療における口腔衛生指導は歯科衛生士が主体となっており、モチベーションの重要性を認識する ・歯周治療を進める中で、患者のその時の症状や状態に応じた指導を行うことができる ・歯周治療の手技について理解し、患者へ治療方針の説明ができると同時に適確なサポートができる 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	歯周治療とは、正常な歯周組織の構造		
2	歯周組織の機能		
3	歯周疾患の分類: 歯肉炎と歯周炎の違い		
4	歯周疾患の原因、歯周医学		
5	歯周治療の進め方		
6	歯周疾患の診査		
7	歯周基本治療、まとめ		
8	歯周治療の流れと口腔衛生指導におけるモチベーションの重要性		
9	歯周外科の目的、用いる器具と手技について		
10	各歯周外科手術の目的、術式		
11	〃		
12	〃		
13	咬合性外傷の診断、処置、固定法について		
14	歯周治療におけるメンテナンスと衛生士の役割		
15	まとめ		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で総括的評価を行う 出欠状況、授業態度などを総合的評価に加味する レポート提出もあろう</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯周疾患:歯周治療」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 「歯周疾患」 (医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科医師として大阪大学歯学部附属病院保存科に勤務。主に歯周病及びう蝕治療を担当した。 歯科医師として米国ペンシルバニア大学歯周病学講座で勤務。主に歯周病の研究と学生教育を担当した。これらの実務経験をもとに、歯周病学について講義を行います。</p>			

科目名	歯科補綴学	授業担当者	照屋 均
開講時期	2年 前期	単位・時間数	2単位30時間(内20時間担当)
≪学習目標≫ 口腔内の失われた形態や緒機能を回復させるための歯科補綴治療の広範な知識と技能を修得する			
≪到達目標≫ <ul style="list-style-type: none"> ・補綴治療の目的について述べるができる ・補綴治療に必要な解剖学的な知識を述べるができる ・補綴治療に必要な基礎的な用語を詳説できる ・人工材料や歯科技工など歯科治療の特殊性を概説できる ・義歯の種類や分類について説明できる ・義歯の構成について説明できる ・義歯の制作方法を概説し、取り扱いなど患者さんに説明できる 			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	補綴治療の目的、特殊性について		
2	補綴装置の種類と適応について		
3	補綴治療の基礎知識～歯列の形態と位置的關係		
4	補綴治療の基礎知識～顎口腔系の機能、咬合		
5	補綴治療の基礎知識～下顎位、下顎運動		
6	部分床義歯の分類・構成		
7	部分床義歯の制作の手順・方法		
8	部分床義歯の技工・患者指導		
9	全部床義歯の分類・構成		
10	全部床義歯の制作の手順・方法・技工・義歯の修理		
≪評価方法≫ 定期試験で総括的評価を行う レポート提出、出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本「歯科補綴」(医歯薬出版)			
≪実務経験≫ 卒業後、3年間北大学部第一保綴学講座勤務。その後、よなばる中央歯科を開業。 35年間の実務経験に基づいて歯科補綴学の講義を行います。			

科目名	歯科補綴学	授業担当者	長堂 忍
開講時期	2年 前期	単位・時間数	2単位30時間(内10時間担当)
≪学習目標≫ 補綴学における専門用語、補綴物の種類、利点、欠点、治療の一連の流れ等を習得、理解する。			
≪到達目標≫ 1. 補綴学の意義 2. 補綴物の種類、利点、欠点 3. 専門用語の理解 4. 治療における一連の流れを習得する			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	自己紹介、教科書の読み合わせ		
2	補綴物の定義と種類、利点、欠点		
3	クラウンについて		
4	ブリッジについて		
5	インプラント治療について		
≪評価方法≫ 定期試験、授業態度を総合して判断する			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本「歯科補綴」(医歯薬出版)			
≪実務経験≫ 歯科医師として長堂歯科医院にて診療に従事。30年の実務経験をもとにクラウン・ブリッジについて講義を行います。			

科目名	歯科矯正学	授業担当者	渡口 進一・塚谷 沙織
開講時期	2年 前期	単位・時間数	2単位 30時間
<p>《学習目標》</p> <p>わが国における歯科の専門分野としての歯科矯正の目的及び、その意義について理解する。又、関連する内容を修得する</p>			
<p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科矯正の概要を説明できる 2. 歯科矯正の知識や技術を身につける 3. 歯科矯正を臨床面でも応用できる 4. 歯科矯正の知識を得ることによって社会に普及できる 5. 今後の歯科矯正の発展及び予防に貢献できる 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	矯正歯科治療の概要		
2	成長発育		
3	正常の交合と不正交合		
4	矯正歯科診断		
5	矯正歯科治療と力ー矯正力・顎整形力・保定ー		
6	矯正装置		
7	上下顎の前後的關係の不調和 上下顎の垂直的關係の不調和		
8	成人矯正 口腔顎顔面の形成異常と変形		
9	歯の埋状と歯数の異常		
10	矯正歯科治療時のトラブルへの対応 健康保険が適用される矯正歯科治療		
11	矯正歯科診断にかかわる業務		
12	矯正歯科診療時の業務		
13	矯正歯科患者と口腔保険管理 口腔筋機能療法 器材、資料、文書の管理		
14	まとめ		
15	小テスト		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で、総括的評価を行う 出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「歯科矯正」（医歯薬出版） 予防歯科学等</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科医師として大学病院矯正歯科に勤務後、矯正歯科医院に勤務。 主に矯正の治療を担当。矯正歯科での実務経験をもとに歯科矯正学について講義・実習を行います。</p>			

科目名	口腔外科・歯科麻酔学	授業担当者	新垣敬一
開講時期	2年 前期	単位・時間数	2単位 30時間
<p>《学習目標》</p> <p>口腔領域に原発する疾患と全身疾患の部分症として口腔に現れる疾患の原因、症状、治療法を理解できる。さらに臨床検査、局所麻酔、全身麻酔、救急蘇生などについても理解できる。疾患の処置・手術に当たっては、疾患の発症原因と予後を理解した上での介助を行うことができる。</p>			
<p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.各種口腔外科疾患の病態や治療法について理解できる 2.口腔外科疾患の治療の際の診察補助、注意事項について十分理解し、さらに患者に説明できる 3.全身状態評価に必要な基本的事項を説明でき、その上で歯科治療における歯科麻酔の役割を説明できる。患者の予備力の評価について説明できる。 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	口腔外科と歯科衛生士、口腔疾患と内科疾患との関係		
2	口唇裂・口蓋裂 顎の先天異常と変形、口腔領域の損傷		
3	小テスト、口腔粘膜疾患		
4	歯の異常・口腔軟組織の先天異常 顎関節疾患		
5	口腔領域の炎症(歯性感染症)		
6	口腔領域の嚢胞・腫瘍		
7	唾液腺疾患・口腔領域の神経性疾患・血液疾患と出血性素因		
8	診察と診断、滅菌と消毒		
9	抜歯術・口腔外科小手術		
10	口腔外科の総括		
11	歯科治療と歯科麻酔		
12	局所麻酔と精神鎮静法 全身麻酔と救急蘇生法		
13	口腔外科・歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわり		
14	口腔外科・歯科麻酔処置における業務		
15	インプラント手術時の業務 術前術後のケアと器材の管理		
<p>《評価方法》</p> <p>成績評価は学習態度および小テスト、定期試験の総合判定により行う</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」(医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科医師として30年歯科口腔外科に勤務。主に口唇口蓋裂、顎変形症治療をはじめ口腔外科全般の治療を担当。現在の勤務する県立中部病院での実務経験をもとに 歯科口腔外科・歯科麻酔について講義します。</p>			

科目名	小児歯科学	授業担当者	山里 理恵子
開講時期	2年 前期	単位・時間数	2単位 30時間
<p>《学習目標》</p> <p>小児の身体的・精神心理的特徴と小児の歯科治療の留意点を理解する。 健全な永久歯を完成させるうえで、障害となる疾患・形成異常・習癖の治療と予防を学ぶ。</p>			
<p>《到達目標》</p> <p>①小児歯科の目的を理解し、小児歯科医療の特徴を学ぶ ②小児の心身の発達と生理的特徴を説明できる ③乳歯と幼若永久歯の特徴をつかみ、予防処置と保健指導の重要性を理解する ④小児の全身疾患、歯科疾患について理解し説明できる</p>			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	小児歯科学概論、心身の発達		
2	小児の生理的特徴、顔面頭蓋の発育		
3	歯の発育とその異常		
4	歯列・咬合の発育と異常		
5	小児の歯科疾患		
6	小児期の特徴と歯科的問題点		
7	小児歯科における患者との対応法		
8	小児歯科における診療体系①		
9	小児歯科における診療体系②		
10	障害児の歯科治療		
11	診察・検査時の業務、う蝕予防		
12	小児歯科における診療補助①		
13	小児歯科における診療補助②		
14	小児の口腔保健管理		
15	歯科診療室と器材の管理 まとめ		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験・レポート提出・出欠状況・授業態度などを総括的に評価をする</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「小児歯科」(医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科医師として与那原中央病院歯科・口腔外科に勤務。主に入院病棟、訪問診療を担当。歯科診療の経験をもとに講義を行います。</p>			

科目名	障害者歯科	授業担当者	勝連義之・長嶺和希
開講時期	2年 後期	単位・時間数	1単位 16時間
<p>《学習目標》</p> <p>障害と障害者について社会的な視点から理解をする。</p> <p>障害の特徴を理解したうえで、歯科治療上の問題点や注意点を理解する。</p>			
<p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害と障害者について社会的な視点から理解し、説明ができる 2. 障害者歯科における歯科衛生士の使命を理解できる 3. 歯科保健と医療における障害者歯科の特質、役割を説明できる 4. 小児、成人、高齢の障害者にみられる歯科的特性を列挙できる 5. 歯科保健、治療における行動調整の種類と特徴を列挙できる 6. 障害者の生活面で必要な歯科的支援について説明できる 7. 障害者歯科治療時のリスク管理を修得する 8. 障害別の歯および口腔の形態的、機能的特徴を列挙できる 9. 障害者の対応に必要な歯科衛生士としての態度、姿勢を修得する 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	障害の概念		勝 連
2	障害の種類と歯科的特徴(知的障害、ダウン症候群)		〃
3	障害の種類と歯科的特徴(自閉スペクトラム症)		〃
4	障害の種類と歯科的特徴(脳性麻痺、てんかん)		〃
5	障害の種類と歯科的特徴(障害者と薬剤)		長 嶺
6	障害者歯科治療のリスク管理		〃
7	障害者歯科における行動調整		〃
8	障害者歯科における歯科衛生士の役割		〃
<p>《評価方法》</p> <p>期末試験で、総括的評価を行う。</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「障害者歯科」(医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科医師として沖縄県口腔保健医療センターに勤務。主に障害者の治療担当。(長嶺和希)</p> <p>歯科医師として医療法人悠歯会那覇まかび歯科に勤務。一般歯科・障害者の治療担当。(勝連義之)</p> <p>障害者歯科での実務経験をもとに障害者歯科について講義を行います。</p>			

科目名	高齢者歯科学	授業担当者	伊波 徹
開講時期	2年 後期	単位・時間数	1単位 16時間
≪学習目標≫ 高齢者・有病者に対しての適切な口腔保健管理ができるように、高齢者の全身及び精神的特徴に関する知識、技能を修得する			
≪到達目標≫ <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者をとりまく社会と環境について説明できる ・高齢者の加齢による全身的及び口腔領域の変化について説明できる ・高齢者の口腔のケアの内容、留意事項について説明できる ・要介護高齢者の現状、特徴を概説できる ・要介護高齢者への口腔のケアの手技や注意点を説明できる ・高齢者の在宅医療と介護について把握できる ・歯科衛生過程の概念について説明できる 			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	高齢者の現状		
2	高齢者の全身的疾患及び口腔疾患		
3	高齢者の日常状態の把握及び薬剤		
4	高齢者の口腔のケア		
5	要介護高齢者の現状		
6	在宅訪問診療の実際		
7	高齢者歯科における歯科衛生過程		
8	まとめ		
≪評価方法≫ 定期試験で、総括的評価を行う レポート提出、出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本 「高齢者歯科」(医歯薬出版) 老年歯科医学会誌			
≪実務経験≫ 昭和51年の開業以来、障害者・高齢者を中心に診察する。 平成7年より要介護高齢者の歯科訪問診療を実施する。 日本障害者歯科学会会員、日本老年歯科医学会会員。			

科目名	歯科放射線学	授業担当者	金城 孝
開講時期	2年 後期	単位・時間数	1単位 16時間
<p>《学習目標》</p> <p>医療用放射線は歯科医療の場で正当に、安全に用いられなければならない事を理解する。歯科医療の場で歯科衛生士が果たすべき役割を正しく認識し、撮影の補助ができる能力を修得する。</p>			
<p>《到達目標》</p> <p>適切な治療を行うために、放射線の必要性和危険性、その利用方法を理解し、歯科エックス線検査において安全で適切な準備、撮影後の処理ができる。</p>			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	歯科医療と放射線		
2	エックス線画像の形成		
3	歯科におけるエックス線検査		
4	口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割		
5	パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割		
6	写真処理と画像保存の実際		
7	放射線治療と口腔管理		
8	まとめ		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で総括的評価を行う 出席状況、レポート(3～4回)、授業態度などを総括評価に加味する</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「歯科放射線」(医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科医師として沖縄赤十字病院歯科口腔外科に勤務。定年後は同部署にて非常勤。これまでの実務経験をもとに歯科放射線学の講義・実習を行います。</p>			

科目名	歯科予防処置(う蝕予防処置含)	授業担当者	喜久村 綾子
開講時期	2年 前期	単位・時間数	2単位 82時間(内24時間担当)
≪学習目標≫ 歯科医院で行われているう蝕予防処置について基礎知識の理解と実技が行えることを目標とする			
≪到達目標≫ ① う蝕予防処置法における臨床応用の配慮点を理解し、作用機序や安全性について説明ができる ② う蝕予防処置に用いる材料の特性を熟知し安全に操作・使用できる ③ う蝕活動性試験について説明ができる			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	う蝕予防処置の総論		
	フッ素洗口法 - 講義・実習		
2	フッ化物歯面塗布法(綿球法・歯ブラシ法) - 講義・実習		
3	フッ化物歯面塗布法(トレー法)、フッ化ジアンミン銀 - 講義・実習		
4	う蝕活動性試験(RDテスト、カリオスタット、CAT21Buf) - 講義・実習		
5	小窩裂溝填塞 - 講義・模型実習		
6	小窩裂溝填塞 - 相互実習		
	まとめ		
≪評価方法≫ レポート提出と定期試験で評価を行う 出席状況を加味する			
≪教科書・参考文献≫ 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版株式会社) 保健生態学(医歯薬出版株式会社)			
≪実務経験≫ 歯科医師として乳幼児のう蝕予防に携わり、その実務経験をもとに予防処置について講義する			

科目名	歯科予防処置	授業担当者	譜久里 律紀																
開講時期	2年 前期	単位・時間数	2単位 82時間(内58時間担当)																
<p>《学習目標》</p> <p>歯科衛生士の職務の根幹となる歯科予防処置の基礎的な知識と手技を習得する。 特に、手技においては対象が「生きている人」であることから、より確実なものを身に付ける。</p>																			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手用スケーラーの種類と特徴を説明できる。 ・ SRP前の観察と留意点について説明する。 ・ SRPに用いる器具を説明する。 ・ SRPの基本を説明する。 ・ マニキンを使ってSRPの基本操作をする。 ・ シャープニングする各種スケーラーの形態と名称を説明できる。 ・ 各種スケーラーのシャープニングを実施できる。 ・ 超音波スケーラーの特徴を説明できる。 ・ 超音波スケーラーの使用方法を説明できる。 ・ 歯科衛生介入に関連する検査方法を説明できる。 ・ 歯周病に関連する検査をあげる。 ・ 口腔内写真撮影を実施出来る。 																			
<p>《授業計画》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～4</td> <td>・超音波スケーラー相互実習、歯周ポケット測定実習</td> </tr> <tr> <td>5～10</td> <td>・キュレットスケーラー基礎実習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>・シャープニング</td> </tr> <tr> <td>12～14</td> <td>・キュレットスケーラー基礎実習</td> </tr> <tr> <td>15・16</td> <td>・歯周ポケット測定実習、シクルスケーラー実習、超音波スケーラー実習</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>・口腔内写真撮影講義、実習</td> </tr> <tr> <td>18～19</td> <td>・まとめ</td> </tr> </tbody> </table>				回	授 業 内 容	1～4	・超音波スケーラー相互実習、歯周ポケット測定実習	5～10	・キュレットスケーラー基礎実習	11	・シャープニング	12～14	・キュレットスケーラー基礎実習	15・16	・歯周ポケット測定実習、シクルスケーラー実習、超音波スケーラー実習	17	・口腔内写真撮影講義、実習	18～19	・まとめ
回	授 業 内 容																		
1～4	・超音波スケーラー相互実習、歯周ポケット測定実習																		
5～10	・キュレットスケーラー基礎実習																		
11	・シャープニング																		
12～14	・キュレットスケーラー基礎実習																		
15・16	・歯周ポケット測定実習、シクルスケーラー実習、超音波スケーラー実習																		
17	・口腔内写真撮影講義、実習																		
18～19	・まとめ																		
<p>《評価方法》</p> <p>原則として、定期試験より評価する。場合により、授業中に小試験を課することもある。 実技テスト、課題提出、授業態度を加味し、総括評価を行う。</p>																			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 「歯周病学 第2版」 (医歯薬出版) 歯科衛生士教本 「歯周病治療の基礎と臨床」 (永末書店) 加藤久子(著) 「プロフェッショナル・スケーリング・テクニック」 (医歯薬出版) 加藤久子(著) 「トータルスケーリングテクニック」 (医歯薬出版)</p>																			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科衛生士として一般診療所、歯科口腔外科に勤務。 一般診療所では歯科衛生士業務全般担当し、歯科口腔外科では主に入院患者の口腔ケアを担当。 これまでの実務経験をもとに歯科予防処置について講義を行います。</p>																			

科目名	歯科予防処置	授業担当者	譜久里 律紀
開講時期	2年 後期	単位・時間数	2単位 78時間
<p>《学習目標》</p> <p>歯科衛生士の職務の根幹となる歯科予防処置の基礎的な知識と手技を習得する。 特に、手技においては対象が「生きている人」であることから、より確実なものを身に付ける。</p>			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手用スクレーラーの種類と特徴を説明できる。 ・ SRP前の観察と留意点について説明する。 ・ SRPに用いる器具を説明する。 ・ SRPの基本を説明する。 ・ 口腔内検査を習得する。 ・ 偶発事故の処理法を理解する。 ・ 血液暴露事故の際の処理法を理解する。 ・ スケーリング操作を習得する。 ・ シャープニングする各種スクレーラーの形態と名称を説明できる。 ・ 各種スクレーラーのシャープニングを実施できる。 ・ 歯科衛生介入に関連する検査方法を説明できる。 ・ 歯周病に関連する検査をあげる。 ・ 患者の口腔内の状況を知り、予防管理の重要性を学ぶ。 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	・キュレットスクレーラー基礎実習		
2～9	・キュレットスクレーラー相互実習		
10～18	・患者実習		
19～20	・歯周ポケット測定～スクレーリング相互実習		
21～22	・シックルスクレーラー、キュレットスクレーラー基礎実習		
23	・まとめ		
<p>《評価方法》</p> <p>原則として、定期試験より評価する。場合により、授業中に小試験を課することもある。 実技テスト、課題提出、授業態度を加味し、総括評価を行う。</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 「歯周病学 第2版」 (医歯薬出版) 歯科衛生士教本 「歯周病治療の基礎と臨床」 (永末書店) 加藤久子(著) 「プロフェッショナル・スクレーリング・テクニック」 (医歯薬出版) 加藤久子(著) 「トータルスクレーリングテクニック」 (医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科衛生士として一般診療所、歯科口腔外科に勤務。 一般診療所では歯科衛生士業務全般担当し、歯科口腔外科では主に入院患者の口腔ケアを担当。 これまでの実務経験をもとに歯科予防処置について講義を行います。</p>			

科目名	歯科保健指導	授業担当者	上原 生子
開講時期	2年 前期	単位・時間数	2単位 60時間
≪学習目標≫ <ul style="list-style-type: none"> 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する 歯科保健指導の基礎となる対象者の把握と評価に基づいた歯科衛生過程を習得する 口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、専門的知識、技術および態度を習得する 健康教育活動の場で指導するために必要な専門知識、技術及び態度を習得する 			
≪到達目標≫ <ul style="list-style-type: none"> 情報収集の目的や得られる情報を説明できる 医療面接の目的を説明できる 歯科衛生過程概要を活用し臨床予備実習において実践できる 各ライフステージの口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる 各ライフステージの歯科保健指導を実施できる 各ライフステージの食生活指導を実施できる 禁煙指導・支援について説明できる 集団に対する伝達方法を理解し説明できる(幼稚園実習) 			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
10	歯科衛生過程の進め方≪14コマ≫ 歯科衛生アセスメント～歯科衛生評価		
4	臨床予備実習≪8コマ≫ ブラッシング指導実習		
4	ライフステージにおける歯科衛生介入≪4コマ≫ 青年期、成人期		
4	地域歯科保健活動≪4コマ≫ 地域歯科保健活動における健康教育		
≪評価方法≫ <ul style="list-style-type: none"> 定期試験(2回)により判定する 前期試験:50%、後期試験:50% 前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う 実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う 			
≪教科書・参考文献≫ <ul style="list-style-type: none"> 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」第2版(医歯薬出版) 「歯科衛生士のための 摂食・嚥下リハビリテーション」(医歯薬出版) オーラルヘルスケア事典(学建書院) よくわかる歯科衛生過程、事例でわかる歯科衛生過程(医歯薬出版) 口腔保健実践ガイドブック 第2版 (学建書院) その他参考資料を適宜紹介 			
≪実務経験≫ <ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生士として歯科診療所に勤務、主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・歯科診療補助業務受付業務を担当。歯科医院での実務経験をもとに歯科保健指導について講義・実習を行います 			

科目名	歯科保健指導	授業担当者	上原 生子
開講時期	2年 後期	単位・時間数	1単位 46時間
<p>《学習目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する 生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得する ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行う為に、専門的知識、技術および態度を習得する 口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識技術及び態度を習得する 健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術及び態度を習得する 			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域歯科保健における健康教育や保健指導の概要を説明できる 地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる 集団に対する伝達方法を説明できる 幼稚園における実践例を説明できる 要介護者の口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる ブラッシングのワンポイント指導法を身につける 			
<p>《授業計画》</p>			
回	授 業 内 容		
1	臨床予備実習《8コマ》		
5	各ライフステージにおける歯科衛生介入		
4	老年期、要介護高齢者		
5	臨床予備実習《10コマ》		
5	各ライフステージにおける歯科衛生介入		
9	幼児期、学齢期		
10	臨床予備実習《4コマ》		
5	各ライフステージにおける歯科衛生介入		
12	幼児期、学齢期		
<p>《評価方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験(2回)により判定する 前期試験:50%、後期試験:50% 前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う 実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う 			
<p>《教科書・参考文献》</p> <ul style="list-style-type: none"> 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」第2版(医歯薬出版) 「歯科衛生士のための 摂食・嚥下リハビリテーション」(医歯薬出版) 「医療連携の役立つ 有病者歯科マニュアル」(医学情報者) その他参考資料を適宜紹介 			
<p>《実務経験》</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生士として歯科診療所に勤務、主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・歯科診療補助業務受付業務を担当。歯科医院での実務経験をもとに歯科保健指導について講義・実習を行います 			

科目名	栄養指導	授業担当者	古堅 由紀子
開講時期	2年 前期	単位・時間数	2単位 30時間
<p>《学習目標》</p> <p>ヒトの生命維持に最も深いかわりを持つ栄養学の基礎知識を学び、歯科診療活動の一環として具体的指導方法を身につける。</p>			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類と役割さらに消化吸収まで理解し、食とつなげて説明できる。 ・日本人の食事摂取基準の意味と意義を理解し、欠乏の予防、過剰の予防を学ぶ ・食生活とう蝕、歯周疾患との関連性を理解する ・ライフステージ別の栄養指導の方法を学ぶ。 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	栄養の基礎知識1(食生活と栄養)		
2	栄養の基礎知識2(栄養素の消化吸収)		
3	食事摂取基準1		
4	食事摂取基準2		
5	栄養素の働き1(糖質)		
6	栄養素の働き2(タンパク質)		
7	栄養素の働き3(脂質)		
8	栄養素の働き4(ビタミン)		
9	栄養素の働き5(ミネラル)		
10	栄養素の働き6(水・食物繊維)		
11	食生活と食品1(国民の健康と栄養の現状)		
12	食生活と食品2(望ましい食生活)		
13	食生活と食品3(ライフステージ別の栄養と調理)		
14	食生活と食品4(食べ物と健康)		
15	総括		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で判定する 出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>新歯科衛生士教本「栄養指導・生化学」(医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>管理栄養士として保育園で献立作成・調理を担当。病院で献立作成・栄養指導を担当。 壮年期・高齢期の生活習慣病予防改善の栄養アドバイザーなど。 乳幼児期から高齢期までの幅広い実務経験から栄養指導について講義を行います。</p>			

科目名	歯科診療補助	授業担当者	稲嶺 直子
開講時期	2年 前期	単位・時間数	2単位 74時間
<p>《学習目標》</p> <p>円滑な診療を行うために器械器具や歯科材料の取扱方法および共同動作の歯科治療の流れを理解し、診療の効果を高める知識・技術を習得する。</p>			
<p>《到達目標》</p> <p>1. ラバーダム防湿操作ができる 2. 連合印象採得ができる 3. 歯科器材の取り扱い方法及び操作ができる 4. スタディモデル作成ができる 5. 暫冠被覆冠作成法について説明ができる 6. 暫冠被覆冠の作製ができる</p>			
<p>《授業計画》</p>			
回	授 業 内 容		
1	ラバーダム防湿講義・実習		
2			
3			
4	歯肉排除講義・実習		
5	連合印象講義・実習		
6	ゴム質印象材講義・実習		
7			
8			
9	印象採得～スタディーモデル作成講義・実習		
10			
11			
12			
13			
14	各科で使用する機材講義・実習		
15	歯内療法 器具の名称・用途・取り扱い・受け渡し実習		
16	矯正 器具の名称・用途・取り扱い・受け渡し実習		
17			
18			
19	暫冠被覆冠講義・実習		
20			
21	前期まとめ		
22			
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験(2回)により判定する 前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う 実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「歯科器械の知識と取り扱い」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「歯科材料の知識と取り扱い」 (医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科衛生士として10年総合病院に勤務。主に歯科診療補助、口腔ケア、チーム医療(NST・RST)、摂食嚥下リハビリテーションを担当。 その実務経験を活かし講義を担当する。</p>			

科目名	歯科診療補助	授業担当者	稲嶺 直子
開講時期	2年 後期	単位・時間数	2単位 76時間
≪学習目標≫ 円滑な診療を行うために器具器材や歯科材料の取り扱い方および 共同動作の歯科治療の流れを理解し、診療の効果を高める知識・技術を習得する。			
≪到達目標≫ 1. 歯科器材の取り扱い方法及び操作ができる 5. 全身疾患のある患者の概要がわかる 2. 印象採得が的確に操作できる 3. 診療の流れに沿っての器材の準備ができる 4. 口述筆記に必要な略称がわかる			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	口腔内写真实習		
2	歯間分離・隔壁講義・実習		
3	薬品・歯科材料の管理		
4	ゴム質印象講義・実習		
5	仮着材・仮封材講義・実習		
6	歯冠修復材講義・実習		
7			
8	外科器具・材料の名称・用途・取り扱い		
9			
10	歯周治療の流れ・機材の取り扱い講義・実習(歯周包帯材含)		
11			
12	歯式について講義・口述筆記実習		
13	ユニットでの相互連合印象採得		
14	う蝕の症状による歯科治療の流れ・傷病名		
15	全身疾患のある患者への対応・訪問診療		
16			
17	総合演習・実技試験		
18			
19			
20	実技まとめ		
21			
22	後期講義まとめ		
23	1年次～診療補助まとめ		
≪評価方法≫ 定期試験(2回)により判定する 前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う 実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「歯科器械の知識と取り扱い」 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「歯科材料の知識と取り扱い」 (医歯薬出版)			
≪実務経験≫ 歯科衛生士として10年総合病院に勤務。主に歯科診療補助、口腔ケア、チーム医療(NST・RST)、 摂食嚥下リハビリテーションを担当。 その実務経験を活かし講義を担当する。			

科目名	臨床検査	授業担当者	宮里 尚美
開講時期	2年 前期	単位・時間数	1単位 16時間
≪学習目標≫ 患者の全身状態を把握するために必要な臨床検査の種類や検査を理解する また、その検査データを解析できる知識・技能を修得する			
≪到達目標≫ <ul style="list-style-type: none"> 臨床検査の種類と検査意義について理解できる 生体検査、血液検査、生化学検査、免疫、血清、細菌、病理検査などの基礎知識を理解する 歯科診療と関連する疾患とその検査値の読み方を習得する 			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	臨床検査の概要		
2	生理検査(体温・脈圧・血圧など)		
3	血液検査		
4	血液検査(鏡顕実習)		
5	凝固・線溶検査		
6	生化学検査・免疫検査		
7	血液型検査・細菌検査・病理検査		
8	歯科診療と関連する疾患の病態と検査のまとめ		
≪評価方法≫ 定期検査で総括評価を行う ミニテスト・レポート提出などを総括的評価に加味する			
≪教科書・参考文献≫ 新歯科衛生士教本「臨床検査法」(医歯薬出版)			
≪実務経験≫ 臨床検査技師として、翔南病院検査科にて勤務。主に生理検査業務を担当しています。 勤務する翔南病院での実務経験をもとに臨床検査について講義及び実習を行います。			

科目名	摂食機能訓練法	授業担当者	上地 智博
開講時期	2年 後期	単位・時間数	1単位 24時間
<p>《学習目標》</p> <p>摂食・嚥下障害が全身に及ぼす影響を十分に理解し、これらの疾患に対して口腔ケアを通して予防、訓練法を修得し全身の健康を維持増進させること</p>			
<p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下障害の概念を理解する 2. 摂食嚥下に関する解剖学を理解する 3. スクリーニングと精査、評価について理解する 4. 訓練法について理解をする 5. 口腔ケアについて理解する 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	摂食・嚥下障害の概念について(発達期と中途障害における分類・病態・原因)		
2	摂食・嚥下にかかわる解剖について(嚥下の各期について)		
3	スクリーニングと精査 評価(Rsst、改良水飲みテスト、フードテスト、VF、VE)		
4	訓練法(直接訓練と間接訓練について)		
5	訓練法(直接訓練と間接訓練について)		
6	摂食・嚥下障害患者症例の検討会		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で、総括的評価を行う 授業態度などを総括的評価に加味する</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>「歯科衛生士の摂食・嚥下リハビリテーション」(医歯薬出版) 動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション(中山書店) 摂食・嚥下障害のVF実践ガイド(南江堂)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>平成20年8月 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士取得。 歯科医師として沖縄県口腔保健医療センターにて月2回摂食指導を担当。 この実務経験ををもとに講義を行います。</p>			

科目名	臨地・臨床実習	授業担当者	指導教員
開講時期	2年 後期	単位・時間数	6単位 299時間
≪学習目標≫ 歯科衛生業務を修得するために、歯科診療の場及び地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。			
≪到達目標≫ ＊臨床実習 ・歯科医師からの指示内容を踏まえた対応ができる。 ・スタッフ(多職種を含む)と協働し、連携のとれた対象へのサービスができる。 ・診療室のルールを理解した行動ができる。 ・医療安全管理に配慮した行動ができる。 ・感染予防(消毒・滅菌、手指消毒等)対策に応じた行動ができる。 ・器材、機器および薬品の管理の方法を理解した行動ができる。 ・患者のデータ資料の管理方法を理解した行動ができる。 ＊臨地実習 ・対象者からの要求を理解した対応ができる。 ・対象に応じて配慮した対応ができる。 ・対象のプライバシーを配慮した態度で応接できる。 ・安全管理に配慮した行動ができる。 ・感染予防(消毒・滅菌、手指消毒等)対策に応じた行動ができる。 ・集団を対象に歯科衛生教育活動が実践できる。			
実習スケジュール			
回	実習内容		
1	歯科診療所実習		
2	病院実習(口腔外科)		
3	口腔保健医療センター		
4	障害者施設		
5	高齢者施設		
6	幼稚園		
≪評価方法≫ 臨床実習評価表、出席状況、課題提出により評価する			
≪教科書・参考文献≫ 歯科衛生士教育サブテキスト 「臨床実習HANDO BOOK」(クインテッセンス出版) 「歯科衛生士のための最新歯科用語辞典 ポケット版」(クインテッセンス出版) 「新人歯科衛生士・デンタルスタッフ ポケットマニュアル」(医歯薬出版)			

科目名	介護技術法	授業担当者	國吉 恒子
開講時期	2年 後期	単位・時間数	2単位 32時間
<p>《学習目標》</p> <p>介護の基本的な技術を修得し老化や障害によって、日常生活に支障のある人に対して生活の自立と満足した生活に向けて援助することができる</p> <p>介護技術を学び多様化する高齢社会の歯科医療の介助に生かす</p>			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の高齢社会の特徴を学び介護の機能と役割を学ぶ ・介護の目的と機能を理解し、介護の基本原則を把握する ・安全で安楽な介護技術を行うことができる ・利用者の個別性を知り、自立度に合わせた介護ができる ・発生しやすい緊急事態を学び、対応方法を学ぶ ・廃用症候群の予防方法ができる ・介護機器、各種福祉用具の使用方法や介助ができる 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	介護の歴史を学び、我が国の少子高齢社会の特徴を学ぶ		
2	介護の対象を理解し、介護者の役割を学ぶ		
3	歯科衛生士として他職種との連携を学ぶ		
4	介護保険制度の概要について		
5	介護者の安全について		
6	利用者の自立支援と介護技術の基本		
7	福祉用具の概要と活用		
8	車椅子利用者、診療の介助		
<p>《評価方法》</p> <p>レポート提出、出欠状況や授業態度、定期試験で総合的に評価を行う</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>「介護概論・基本介護技術」(共栄出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>沖縄リハビリテーション福祉学院(14年)、那覇看護専門学校(7年)、沖縄赤十字病院(5年)等で勤務。この実務経験をもとに講義いたします。</p>			

科目名	隣接医学・救急蘇生法	授業担当者	上田 剛生
開講時期	2年 前期	単位・時間数	2単位 30時間
<<学習目標>> 人体の構造と機能及び疾病の基本的理解 医療と公衆衛生の基本的理解			
<<到達目標>> 生活習慣病、身体疾患、精神疾患を理解し、基本的な対応を習得する リハビリ医療、公衆衛生の現状を理解する 救急蘇生法を理解する			
<<授業計画>>			
回	授 業 内 容		
1	人の成長・発達と老化		
2	身体構造と心身の機能		
3	公衆衛生の現状		
4	疾病の概要と患者の管理1		
5	疾病の概要と患者の管理2		
6	疾病の概要と患者の管理3		
7	疾病の概要と患者の管理4		
8	疾病の概要と患者の管理5		
9	疾病の概要と患者の管理6		
10	有病者の口腔ケアと医療連携1		
11	有病者の口腔ケアと医療連携2		
12	有病者の口腔ケアと医療連携3		
13	救急蘇生法I		
14	救急蘇生法II		
15	まとめ		
<<評価方法>> レポート提出、出席状況や授業態度、定期試験で総括的に評価を行う			
<<教科書・参考文献>> 医療連携”に役立つ有病者歯科マニュアル(医学情報社) 新・社会福祉I:養成講座(1)人体の構造と機能及び疾病-医学一般(中央法規) ポイントチェック歯科衛生士:国家試験対策5(医歯薬出版)			
<<実務経験>> 歯科医師として沖縄県立中部病院、歯科口腔外科に勤務。 主に口腔外科の治療を担当。 総合病院での実務経験をもとに隣接医学・救急蘇生について講義を行います。			